

エピソード49

保護者は薬を飲ませることに抵抗があります。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



熟年の先生が、3年生を担当した時に
経験したことをお聞きします。

だいき君は、自分の気持ちとちょっとでも
違うことがあると、大声を出したり、
壁や友だちを蹴飛ばしたりしていました。

前担任が新任の先生だったので、周りから
指導力不足が原因かと思われていました。





保護者は、だいき君の様子を
どのように受け止めていましたか。

お母さんは、だいき君の様子が家と学校で
違うことを認められませんでした。

そのため前担任は、お母さんからあれこれ
言われていました。経験が浅かったので、
指導力不足もあったのかもしれない。





先生が担任してからの、
だいき君の様子はどうでしたか。

落ち着く日もありましたが、爆発的な
感情を抑えられず、担任外や管理職まで
対応しても、興奮が収まらない日が何日も
続くことは、以前と変わりませんでした。

医療機関の受診が必要だと思われました。





保護者の様子はどうでしたか。

お母さんも、毎日呼び出されることが続いたので、疲れてしまっていました。

それで、ようやくお母さんも、医療機関を受診することを受け入れてくれました。





医療機関で診察を受けて、
保護者はどんな様子でしたか。

お母さんはだいき君に、病院がすすめる
薬を飲ませることを、すごく嫌がりました。

医師に対しても、頭ごなしに言われた
という印象を持ち、不満がいっぱいでした。





学校としてどう対応したのですか。

コーディネーターの先生が「私もお母さんと一緒に病院に行きますよ。医師の話と一緒に聞きます」と言ってくれたのです。

すると、お母さんの気持ちがほぐれて、薬を飲んでみることになったのです。





服薬して、だいき君や保護者に
変化は見られましたか。

だいき君は、すっかり落ち着きました。
もともと学力が高かったので、リーダー的
な行動も増やしていくようにしました。

お母さんもだいき君も、落ち着いて活躍
できることが、とてもうれしそうでした。





先生が、だいき君のことを通して
考えたことはどんなことですか。

支援が必要だと思っても、そのことを
保護者が受容するためには、それぞれに
必要な時間があるのだと思いました。

学級の子どもたちが、少しわがままに
見えるだいき君の行動を、理解してくれた
ことも私はとてもうれしかったです。





なみちちゃんの一言

- 子どもに支援が必要なとき、保護者がそれを受容するまでには十分な時間が必要です。
- 保護者の思いに寄り添って、焦らずに支え続けることで、保護者も納得して歩き出すことができるのですね。
- 服薬を嫌がる保護者には、医師から薬の安全性や効果について納得できるまで説明してしていただけるといいですね。
- 学級にはいろいろな子どもがいて、それぞれが尊重され大切にされる学級づくりをできるといいですね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)